

# エンカウンター（ENCOUNTER）

## 第 4 号

平成 14 年 8 月 24 日

小西芳之助「主の御名を呼ぶ」より（5）

高円寺東教会会員の日々の3つの最小にして  
しかも最も大事な義務

- 1 . キリストの名によって祈ること。  
朝起きたとき、夜寝るとき、仕事を始めるとき、終わったとき、  
神の守りを願い感謝しつつ。
  - 2 . 先生の聖書注解書 1 ページを読むこと。  
これにより、信仰の内容を学ぶ。
  - 3 . 自分の義務を尽くすよう試みること。  
これにより、信仰の力を学ぶ。
- 而して、以上の3つとも「我が主イエスの名を呼ぶ」うちに実現されている。

（昭和 43 年 6 月 10 日）

## よく始めることは、半分成就したこと

私は、テレビで相撲を見るのが好きである。

勝負は、最初の立ち上がり方で殆ど決まってしまうと言う。人生もまた、そうであると思う。今日の一日は、どうして始めるかによって決まる。

今日一日をどうして始めるかを注意しようではないか。毎朝、天国に一日近づいたことを神に感謝する祈りと、主の御名を呼びつつ、今日一日の義務を尽くそうとする決心とを持って起き上がろうではないか。

(昭和44年1月)

## 御名を呼びつつ私はゆっくり歩いている

私は、称名しつつ、どんなことでもなし、また何処へでも行こうと勤める。それは、キリスト・イエスが一緒にいて下さるからである。

そして私は、それをなすのに急いだり、心配したりせずに、ゆっくりと安心してやる。それは、私がなすのではなく、キリストがなして下さるからである。

かくして、称名することは、私を天に導いてくれるのみならず、日々の私の義務をなすのを助ける。

御名のあがめられんことを。

(この文を信仰の友、加藤栄一君に捧げる。)

(昭和45年7月12日)

## 感 謝

パウロ・アルトハウスは、彼の本の中でいわく「感謝とは、お陰であるということを知ることである」と。

私はそれを読んだ時、感謝のあまり、本を閉じ、ひざまずいて、祈って神に感謝した。神が感謝の意味を示して下さったことを。そのとき私は、救いは十字架のお陰であり、肉体と生命は、神の賜物である太陽、空気、水、食物のお陰であることを感じた。

平常は、それを忘れていたが、主の名を呼んで思い出している。

(昭和46年5月15日)

## ローマ人への手紙

ローマ人への手紙とは如何なる手紙であるか。それは、1つの手紙であるが、その中に、

第1に、我々は、イエス・キリストの贖いによって、永遠の生命を受けること。

第2に、その永遠の生命を受けると、地上のこの生活において、如何なる問題も解決しうること。

第3に、我々の臨終のとき、神がキリストをお遣わしになって、我々をお迎え下さり、そして、キリスト再臨の時、我々は復活して、永遠にキリストと共に生きること。

等が書いてある手紙である。

何と素晴らしい手紙ではないか。

(昭和46年9月28日)

## 一隅を照らす

伝教大師は、弟子に一隅を照らすことを教えた。

私は、イエスの名を呼ぶことによって、イエスに一隅を照らして頂き、もって伝教大師に従う者になりたい。

(昭和48年8月10日)

## 「やってみる」

英語で私の好きな言葉を1語選べと言われたなら、私は「トライ」という字を選ぶ。そのわけは、この「やってみる」ということによつてのみ、真理を知るのみならず、体験できるからである。

高等学校の英語の教科書に、私は、次の言葉を発見した。いわく、「多くのことがなされるであろう。もし我々が、ただやってみさえすれば。誰もやってみるまでは、何をなし得るか、自分の力を知らない。そして、強制されるまでは、自分の最善をやってみる人は少ない」と。私は、この言葉のうち、「多くのことが」という言葉は、食い足らぬと思う。「多くのことが」という言葉を「偉大なることが」という言葉に改めたい。

(昭和47年11月25日)

## ロマ書 10 章 13 節

聖書のうちで、好きな文句を 2 節選ぶとなると、私は、ロマ書 10 章 9 節、10 節を選ぶ。また、1 節を選ぶとなると、私は、同 10 章 13 節を選ぶ。

その理由は、私が思うに、どうしたら救われるかについて、10 章 9、10 節ほど明瞭に説明せる 2 節は他に無く、また、10 章 13 節は、10 章 9、10 節の内容を全部含んでいるからである。

(昭和 47 年 12 月 17 日)

## 平凡なこと

有名な英語の先生であった神田乃武先生はこういわれた。「平凡な事を成さんと試みるなかれ。平凡な事を非凡に素晴らしく成さんと試みよ」と。

私は、中学時代に、これを暗記した。しかし、どうしても忘れることはできなかった。歳をとればとるほど、この文句が好きになる。私たちは、偉大なことにして、非平凡な事をなしたいと思う。しかし、平凡なことを素晴らしくなさんと努力することなしには、偉大なことをなすことは出来ない。そのわけは、平凡な事を素晴らしくなさんとすることによってのみ、偉大なことをなす力が与えられるからである。

(昭和48年2月11日)

## 人の偉大なること

人の偉大なることは、その人の為すこと、知っていること、所有していること、などによって知ることは出来ない。その人がどのような人であるか、によって知ることが出来る。そして、どのような人かということは、その人が、先人の遺してくれた偉大なことを、どれだけ本当に学び取って、自分のものになっているか、によって知ることが出来る。

謙遜になって、偉大なことを毎日学び、自分のものにしようではないか。

(昭和49年4月15日)

## 私の信者としての生活

生ければ称名、目の前のなすべきことをなし、

死ねば天国、イエスに迎えらる

その時の喜び如何

されば、生きるも死ぬるも喜び

(昭和51年9月11日)